

胃がん

術後連携パス



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

〒438-8550 静岡県磐田市大久保512番地3

TEL:0538-38-5000(代表)

FAX:0538-38-5050 HP:<https://www.hospital.iwata.shizuoka.jp/>

はじめに

【連携パス】とは、地域のかかりつけ医と磐田市立総合病院の医師が、あなたの治療経過を共有できる「治療計画表」のことです。「連携パス」を活用し、かかりつけ医と磐田市立総合病院の医師が協力して、あなたの治療を行います。

この「連携パス」を活用することで、地域のかかりつけ医と磐田市立総合病院とが協力し、患者さんの視点に立った安心で質の高い医療を提供する体制を構築することを目指しています。また、患者さんにとっても長い待ち時間や通院時間の短縮などの負担軽減や、ご自身の治療計画や経過の把握、かかりつけ医の手厚い診療による不安の解消といったメリットにもつながります。



緊急を要する場合、休日や夜間等かかりつけ医を受診できない場合

磐田市立総合病院 ☎0538-38-5000 (代表) までご連絡 ください。

お伝え下さい

**地域連携パス
患者です。**

退院後の日常生活	3
手術後の日常生活	3
術後補助化学療法について	9
抗がん剤による副作用	9
退院後もこれだけは忘れずに	12
胃がん術後連携パス	15
磐田市立総合病院の 各部署・担当等のご案内	22
診療情報提供書	24

退院後の日常生活

からだの調子に自信がついたら、
仕事に復帰。
外出も旅行も、何でもできます。



手術後の日常生活

胃がん手術後の後遺症について以下のような種類があります。

- ① ちょうへいそく 腸閉塞
- ② ダンピング症候群
- ③ 貧血
- ④ こつそしょうしょう 骨粗鬆症
- ⑤ 逆流性食道炎
- ⑥ 胃手術後胆石症
- ⑦ 小胃症状

それぞれについて解説いたします。

① 腸閉塞

手術したあとは、ほとんどの場合、お腹の中で腸があちこちにくっつきます。その結果、腸が曲がったりせまくなることによって腸閉塞が起こります。せまくなったところに食べ物がつまると、便もガスも出なくなります。ときには腸がねじれて、腸の流れが閉ざされてしまうこともあります。

〔 症状 〕

一般的に悪心、嘔吐、排便・排ガスの停止、腹痛がみられます。時には、腸がねじれて血流が途絶え、時間とともに腸が壊死（腸管の細胞が死滅してしまうこと）して、腸に穴が開いたりして大変危険です。吐き気や嘔吐に加えて痛みが強い場合には、必ず医師の診察を受けて下さい。

〔 治療法 〕

多くの場合には、絶食していると**自然に治る**のですが、ときには癒着ゆちゃくを剥がしたり、ねじれを治す手術が必要なことがあります。



② ダンピング症候群

ダンピング症候群とは・・・

胃を切除すると、いままで胃の中で攪拌^{かくはん}されて少しずつ腸に移動していた食物が、一度に急に腸へ流れ込む状態になります。そのために起きる不愉快な症状がダンピング症候群といわれるものです。食後 30 分以内に起こる場合（**早期ダンピング症候群**）が多いですが、食後 2 ～ 3 時間で起こる場合（**後期ダンピング症候群**）もあります。

〔 症状 〕

早期ダンピング症候群：食後 30 分以内に発汗、めまい、脈拍が上がるなどの全身症状と悪心、腹部膨満感、下痢などの消化器症状が出現します。

後期ダンピング症候群：食後 2 ～ 3 時間に頭痛、汗が出る、脈拍が増える、めまい、脱力感を覚え、ときには気を失ってしまうこともあります。

〔 治療法 〕

早期ダンピング症候群：安静により数分～数十分で改善します。しかし、顕著な場合は抗セロトニン薬や粘膜麻酔薬を投与することもあります。

後期ダンピング症候群：糖質の補給が必要になります。ブドウ糖の静注や、ビスケットやあめ玉、氷砂糖をとったり、甘い飲み物を飲んで下さい。**予防するには、食後 2 時間あたりに何かおやつを食べることが有効です。**



③ 貧血

貧血とは・・・

胃の切除により、鉄分やビタミン B₁₂ が吸収されにくくなるために貧血が起きます。前者は、鉄欠乏性貧血、後者は^{きよせきがきゅうせいひんけつ}巨赤芽球性貧血といいます。

●鉄欠乏性貧血

手術後数か月から出現することがあります。治療は、鉄剤の補充を行います。

●巨赤芽球性貧血

ビタミン B₁₂ は体内に蓄積されており、数年間はその蓄積したビタミン B₁₂ でまかなうことができます。しかし手術後 4 ～ 5 年以降には蓄積がなくなり、巨赤芽球性貧血が発症することが多いです。治療法は、**ビタミン B₁₂ の注射による補充**です。定期的に血液検査をして、不足していれば補給する必要があります。

④ 骨粗鬆症

骨粗鬆症とは・・・

胃の手術をすると、カルシウムの吸収が悪くなるため骨のカルシウムが減少して骨が弱くなります。ときに、骨折したりします。

定期的に骨のカルシウムの濃度（骨塩量）を測定（レントゲンなどで簡単に測定できます）し、必要であればカルシウムや、ビタミン D の投与が望ましいとされています。**普段からカルシウムの補給には十分気を付けましょう。**

⑤ 逆流性食道炎

逆流性食道炎とは・・・

食道と胃のつなぎ目にある逆流防止機構が胃切除により失われる、もしくは弱くなることで、消化液が食道に逆流し炎症を起こした状態をいいます。一般的な（手術をしていない）逆流性食道炎は胃酸の逆流が原因ですが、胃切除後は胃酸分泌能が低下もしくは消失しており、胆汁（腸液）が食道まで逆流し炎症を起こすことが多いです。

〔 症状 〕

代表的な症状として、胸やけや食べ物が詰まった感じなどがあります。消化液が口まで逆流すると、胆汁の苦い味がします。酸っぱい味であれば胃酸の逆流です。

〔 治療法 〕

食後すぐに横にならない、食後 2・3 時間あけて就寝するなどの生活習慣の工夫が必要になります。症状が強い場合、胆汁逆流による逆流性食道炎に対しては蛋白分解酵素阻害剤を、胃酸による食道炎に対しては胃酸分泌抑制剤を使用します。また逆流を起こさないように腸管蠕動を改善する目的で消化管運動改善薬なども使用されます。

⑥ 胃手術後胆石症

胃手術後胆石症とは・・・

胃の手術の時には、しばしば胆嚢^{たんのう}の神経が切れてしまいます。そのために胆嚢の動きが悪くなり、あとで胆嚢に炎症を起こしたり、胆嚢内に結石ができることがあります。

胆嚢とは・・・

胆嚢は肝臓でできる胆汁という黄色い液をためたり濃縮したりする、なすびのような形をした臓器です。胆嚢は十二指腸につながっており、脂肪を含んだ食物が十二指腸に流れてきた時には、ためていた胆汁を十二指腸に放出することによって、消化・吸収を助けることになります。

⑦ 小胃症状

小胃症状とは・・・

胃を切除したために胃が小さくなり、あるいはなくなることによって起こってくるすべての症状を小胃症状といいます。

〔症状〕

食事が少ししか入らない、あるいは、すぐにお腹が一杯になるといった症状は最も一般的な症状です。手術を受けられたほとんどの方が経験される症状です。

〔治療法〕

お腹を順応させてやることが大切になります。そのためには、食事のとり方が大切です。

術後補助化学療法について

がんを手術で全部切除できたように見えても、その時点ですでに目に見えないがん細胞がほかの臓器に移動している可能性があり、時間がたってから再発として見つかることがあります。そこで、目に見えないがんを根絶することを目的として、抗がん剤の投与が行われます。これを補助療法といいます。一般的には内服薬を用いて1～2年行います。

抗がん剤による副作用

抗がん剤による副作用について説明します。抗がん剤はがん細胞のように、はやく増える細胞を攻撃しますが、正常な細胞にも薬の影響が出てしまうため、以下の症状が副作用として現れます。

- ① 吐き気、嘔吐
- ② だるさ、貧血
- ③ 感染
- ④ 口内炎
- ⑤ 下痢
- ⑥ 脱毛 など

次ページから、それぞれについて解説します。

① 吐き気、嘔吐

抗がん剤による吐き気・嘔吐は、胃や腸の粘膜や脳の嘔吐中枢に抗がん剤が影響し出現します。症状は人や抗がん剤により様々で、軽い吐き気を感じるだけの人もありますし、投与終了数時間後から24時間にわたり激しく嘔吐する人もいます。また、数日間、続くこともあります。人によっては前回の投与時の嘔吐の経験から、条件反射的に薬を投与する前から吐き気を感じてしまう人もいます。

② だるさ、貧血

抗がん剤治療中にだるさが出てきます。原因は明確ではありませんが、抗がん剤に対する体の反応により余分なエネルギーを使用することなどが考えられています。また、ほとんどの抗がん剤は血液を造るために重要な働きをする骨髄を障害する作用があります。したがって、抗がん剤治療を何回か繰り返すと、全身に酸素を運搬する赤血球が不足し、貧血状態になることがあります。

③ 感染

抗がん剤治療による骨髄障害のため、白血球が減少します。白血球が減少すると細菌と闘う力が弱くなり、非常に感染しやすい状態になります。このため、菌血症（血液中に細菌が侵入した状態）をはじめ、腸炎、肺炎などの感染に対する注意が必要です。

④ 口内炎

化学療法の副作用で口内炎ができることがあります。また、化学療法中は細菌に対する抵抗力が弱くなっているため、口の中が感染し、重大な病気を引き起こすこともありますので、気を付けて下さい。

⑤ 下痢

抗がん剤は腸の粘膜に影響を与えるため、下痢をおこすことがあります。1日に何度も下痢をする日が続く場合、あるいは差し込むような腹痛があるような場合には、かかりつけ医の診察を受けて下さい。

⑥ 脱毛

脱毛はよくみられる副作用のひとつですが、治療が終われば毛は元どおりに生えてきます。

治療開始後すぐにみられるものではありませんが、髪が根元で切れるようになり、頭皮も柔らかくなるのが症状の出始めです。症状の出方は人により様々で、徐々に薄くなる人もいれば、自分で自分の頭髪をひっぱると大量の頭髪がとれるようになってショックをうける人もいます。

回復は比較的早く、治療終了後しばらくすると生え始め、通常は約6か月で回復します。



退院後もこれだけは忘れずに！

定期的な診察や検査に行きましょう

手術後 **5 年**を目処に、定期的な診察や検査を行います。診察や検査の間隔は、手術後の状態によって違いますから、医師の指示通り、決められた日に診察や検査を受けるようにしてください。なお、**定期検査は胃がんを対象としているものです。他の病気をカバーするものではありません。**気になることは、かかりつけ医までご相談下さい。



定期的な診察
や検査を

毎月 1 回、自己検診を続けましょう。

どんな病気でも早期に発見して、早期に治療することが大切です。毎月 1 回、日を決めて、ご自分で症状をチェックしてください。気になるところがあったら、病院主治医又はかかりつけ医に相談してください。



指示された薬は忘れずに服用しましょう

病院で処方された薬のなかでも化学療法剤は手術の治療効果を高めるために必要なものです。

薬を服用するように医師から指示された場合には、指示された通りに忘れずに正しく服用してください。

副作用がある場合には、医師に申し出てください。



悩んでいるのはあなただけではありません

あなたが安心して治療や検査を続けていくためには、ご家族とともに医師や看護師とのコミュニケーションをよくし、一緒にこの病気と闘っていく気持ちが大切です。

まだまだ不安や悩みがあると思いますが、あなたと同じ経験をされた患者さんはたくさんいらっしゃいます。そして、その多くの方が、病気を克服し、充実した人生を送っていることを忘れないでください。決して自分のからに閉じこもってしまわないように、
明るく、希望を持って前進し、
病気をしてかえって良かった
と思われるような建設的な生活を送ってください。

不安や心配なことがある時は患者相談窓口や医師、担当看護師に気軽にご相談下さい。



中東遠地域 胃がん連携パス 1 か月～6 か月

☐ ご本人記入欄

診療場所	かかりつけ医	病院	かかりつけ医	病院
経過	1 ～ 2 か月 後	3 か月 後	4 ～ 5 か月 後	6 か月 後
受診日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
ご本人の 自覚症状 (ご本人かご 家族が☑を してくださ い)	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()
検査予定	☐ 採血	☐ 採血	☐ 採血	☐ 採血 ☐ 胸腹部CT ☐ 腹部部エコー
AST/ALT /γGT				
T-Bil/ アルブミン				
クレアチニン				
Hb/血小板				
CEA				
CA19-9				
体重	kg	kg	kg	kg
特記事項	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり

中東遠地域 胃がん連携パス 7 か月～1 年

～かかりつけ医の先生へ～
受診が必要な場合は、24頁の診療
情報提供書を地域医療連携室に送
付し、再診予約をお願いします。

☐ ご本人記入欄

診療場所	かかりつけ医	病院	かかりつけ医	病院
経過	7 ～ 8 か月後	9 か月後	10 ～ 11 か月後	1 年後
受診日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
ご本人の 自覚症状 (ご本人かご 家族が☑を してくださ い)	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()
検査予定	☐ 採血	☐ 採血	☐ 採血	☐ 採血 ☐ 胸腹部CT ☐ 内視鏡検査 ☐ 腹部エコー ☐ 胸腹部レントゲン
AST/ALT /γGT				
T-Bil/ アルブミン				
クレアチニン				
Hb/血小板				
CEA				
CA19-9				
体重	kg	kg	kg	kg
特記事項	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり

中東遠地域 胃がん連携パス 1年1か月～1年6か月

☐ ご本人記入欄

診療場所	かかりつけ医	病院	かかりつけ医	病院
経過	1年1～2か月後	1年3か月後	1年4～5か月後	1年6か月後
受診日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
ご本人の 自覚症状 (ご本人かご 家族が☑を してくださ い)	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便通 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便通 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便通 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便通 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()
検査予定	☐ 採血	☐ 採血	☐ 採血	☐ 採血 ☐ 胸腹部CT ☐ 腹部部エコー
AST/ALT /γGT				
T-Bil/ アルブミン				
クレアチニン				
Hb/血小板				
CEA				
CA19-9				
体重	kg	kg	kg	kg
特記事項	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり

中東遠地域 胃がん連携パス 1年7か月～2年

～かかりつけ医の先生へ～
受診が必要な場合は、24頁の診療
情報提供書を地域医療連携室に送
付し、再予約をお願いします。

☐ ご本人記入欄

診療場所	かかりつけ医	病院	かかりつけ医	病院
経過	1年7～8か月後	1年9か月後	1年10～11か月後	2年後
受診日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
ご本人の 自覚症状 (ご本人かご 家族が☑を してくださ い)	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便通 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便通 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便通 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便通 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()
検査予定	☐ 採血	☐ 採血	☐ 採血	☐ 採血 ☐ 胸腹部CT ☐ 内視鏡検査 ☐ 腹部エコー ☐ 胸腹部レントゲン
AST/ALT /γGT				
T-Bil/ アルブミン				
クレアチニン				
Hb/血小板				
CEA				
CA19-9				
体 重	kg	kg	kg	kg
特記事項	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり

中東遠地域 胃がん連携パス 2年1か月～3年

☐ ご本人記入欄

診療場所	かかりつけ医	病院	かかりつけ医	病院
経過	2年1～5か月後	2年6か月後	2年7～11か月後	3年後
受診日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
ご本人の 自覚症状 (ご本人かご 家族が☑を してください)	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()
検査予定	☐ 採血	☐ 採血 ☐ 胸腹部CT ☐ 腹部部エコー	☐ 採血	☐ 採血 ☐ 胸腹部CT ☐ 内視鏡検査 ☐ 腹部エコー ☐ 胸腹部レントゲン
AST/ALT /γGT				
T-Bil/ アルブミン				
クレアチニン				
Hb/血小板				
CEA				
CA19-9				
体重	kg	kg	kg	kg
特記事項	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり

中東遠地域 胃がん連携パス 3年1か月～4年

～かかりつけ医の先生へ～
受診が必要な場合は、24頁の診療
情報提供書を地域医療連携室に送
付し、再診予約をお願いします。

☐ ご本人記入欄

診療場所	かかりつけ医	病院	かかりつけ医	病院
経過	3年3か月後	3年6か月後	3年9か月後	4年後
受診日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
ご本人の 自覚症状 (ご本人かご 家族が☑を してくださ い)	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便通 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便通 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便通 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便通 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()
検査予定	☐ 採血	☐ 採血 ☐ 胸腹部CT ☐ 腹部エコー	☐ 採血	☐ 採血 ☐ 胸腹部CT ☐ 内視鏡検査 ☐ 腹部エコー ☐ 胸腹部レントゲン
AST/ALT /γGT				
T-Bil/ アルブミン				
クレアチニン				
Hb/血小板				
CEA				
CA19-9				
体重	kg	kg	kg	kg
特記事項	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり

中東遠地域 胃がん連携パス 4年1か月～5年

～かかりつけ医の先生へ～
受診が必要な場合は、24頁の診療
情報提供書を地域医療連携室に送
付し、再診予約をお願いします。

☐ ご本人記入欄

診療場所	かかりつけ医	病院	かかりつけ医	病院
経過	4年1～5か月後	4年6か月後	4年7～11か月後	5年後
受診日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
ご本人の 自覚症状 (ご本人かご 家族が☑を してください)	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()	☐ なし ☐ あり (以下に○をつけてください) 食欲不振・嘔気・便秘 異常・全身倦怠感・ むくみ・腹部膨満感 その他 ()
検査予定	☐ 採血	☐ 採血 ☐ 胸腹部CT ☐ 腹部部エコー	☐ 採血	☐ 採血 ☐ 胸腹部CT ☐ 内視鏡検査 ☐ 腹部エコー ☐ 胸腹部レントゲン
AST/ALT /γGT				
T-Bil/ アルブミン				
クレアチニン				
Hb/血小板				
CEA				
CA19-9				
体 重	kg	kg	kg	kg
特記事項	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり	☐ 変化なし ☐ コメントあり

磐田市立総合病院の各部署・担当等のご案内

がん相談支援センターのご案内

患者さんが安心して療養に専念していただけるように病院内に相談窓口を設けております。がんに関する様々な悩み、不安、心配ごとの相談はがん相談支援センターでお受けしております。

場 所：磐田市立総合病院 東館2階 65番

時 間：月曜日～金曜日
8時15分～16時45分
(休日と年末年始を除く)

電 話 番 号：0538-38-5000 (代表)
0538-38-5286 (直通)

予約方法：電話または窓口でお受けします。「がん相談の予約がしたい」とお伝えください。

相談は電話でのご相談、対面でのご相談ができます。

磐田市立総合病院の受診について

病状が落ち着いているときの投薬や日常の診療はかかりつけ医が行い、専門的な治療や定期的な検査は磐田市立総合病院が行います。

ちょっとしたケガや日常の相談は、まずかかりつけ医にご相談ください。必要に応じて磐田市立総合病院を受診してください。

【連携パス受診】

かかりつけ医から「地域連携のための診療情報提供（24 頁）」を、磐田市立総合病院の地域医療連携室にファックスを送付していただき、受診当日は保険証、診察券、「連携パス」を持って受診してください。

【予約外受診】

必要があれば、予約外医療も受け付けています。
かかりつけ医に相談し、地域医療連携室経由で診療予約を取っていただくか、消化器外科外来に電話でご相談ください。

【夜間・休日などの対応】

緊急を要する場合で、休日や夜間等かかりつけ医を受診できないときは、磐田市立総合病院救命救急センターまでご連絡ください。その際には地域連携パス患者であることをお伝えください。

電話番号：0538-38-5000（代表）

★5年目以降のかかりつけ医は必要時受診
（3～6か月）

★定期受診は5年目まで

★定期受診日以外でも必要があれば受診



科

先生御机下

診療情報提供書(がん診療地域連携パス)

患者氏名 _____

生年月日 T・S・H 年 月 日

上記患者さんの診療状況を報告をさせていただきます。

連携パス診療状況

- ☐ 著変なし
☐ 以下の変化・特記事項あり

今後ともよろしくお願いいたします。

発信日 20 年 月 日

発信医療機関

がん診療地域連携パス ファックス送付先 0538-38-5549

磐田市立総合病院 地域医療連携室

電話 0538-38-5545

※コピーしてお使いください

メモ

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.



お名前

様

かかりつけ医(診療所の名称)

(電話 — —)

磐田市立総合病院 消化器外科

担当医

電話 0538-38-5000(代表)

受付時間 8:30~17:00まで(平日のみ) 休診日 土・日・祝・年末年始(12/29~1/3)